

1枚のカードに1から9までの数字とシールを1枚ずつ貼ります。

そのカードを使ってこんなことをしています。

「りんごが1こあります。1こもらいました。みんなでなんこですか。」

と問います。

そして数字の1を指差し、「いち」と読み、シールを指差して「に」と読みます。

みんなで「2(に)こ」と話します。

「りんごが2こあります。1こもらいました。みんなでなんこですか。」

と問います。

そして、数字の2を指差し、「に」と読み、シールを指差して「さん」と読みます。

みんなで「3(さん)こ」と話します。

りんごのシールを1から9枚はったカードと1から10までの数詞を用意します。

「りんごが1こあります。」

「りんごが2こあります。」

といって2枚のりんごカードを出します。

「みんなでなんこですか。」

と話し、2枚のカードのりんごを指差して数えます。

「いち、に、さん」

と数えて、数詞の「3」を子どもに選ばせます。

これをくりかえして、「みんなで」と言うことばのときは、つづけて数唱すればいいことを教えます。

これから、しばらく「かず」のことについてまとめます。

子どもにとってむずかしい内容かもしれませんが、ことばの教室でこんなことをしています。

式からお話し問題を作ることをしています。

はじめに式(3 + 2 = )を示します。

その後、こんな風に例示します。

りんごのシールを3枚と2枚はっている絵カード二つを次のような文が書いてあるプリントの上におきます。

「りんごが (りんご3個の絵カード) あります。

りんごを (りんご2個の絵カード) もらいました。」

そして、絵カードと文を指差しながら、

「りんごが3こあります。

りんごを2こもらいました。」  
と読み、復唱するように言います。  
さいごに、みんなで何個になりますか。  
と問います。  
そして、式を書き、答えを求め、答えるようにします。  
このあと、式を出して、まねさせるようにします。

算数の問題づくりの続きです。  
さて今度は子どもに作ってもらいます。  
「みかん」の絵カードを使います。  
「みかんが3こあります。  
みかんを2こもらいました。  
みんなでなんこになりますか。」  
などまねをして書かせます。  
次は、はじめに示す式を変えます。  
そして、つぎに求めるものを変えます。  
たとえば、いぬの絵カードを出して、「これで問題を作って」と言います。  
「いぬが びきいます。」  
と書ければ、いぬの数え方があっていることをほめます。  
そして「あります」と「います」が使い分けられたことをほめます。  
「いぬが びききました。」  
と書ければ、「もらいました」と言うこともあるかもしれませんが、「きました」と言ったことをほめます。

「お風呂に10まで入っていよう」と子どもに言うことがあります。  
それを「少し変えて、みてください。」と幼児のお母さんに話すことがあります。  
「犬を十匹まで数えてみよう。」  
「一週間を言ってみよう。」  
「鉛筆を十本まで数えてみよう。」  
「一日(ついたち)から十日(とおか)まで数えてみよう。」  
というように。

りんごの絵カードを用意します。

3個のりんごと2個のりんごを見せて

「どっちがおおい？」と聞きます。

次に

「いくつちがう？」と聞きます。

3個のりんごと2個のりんごの絵カードを縦にならべて、比べます。

1こちがう

ことを確かめます。

そして、

3このりんごのほうが1こおおい。

2このりんごのほうが1こすくない。

と教えます。

りんごの絵カードを使い、ほかの数でも確かめます。

「はんぶん」と言うことばを読みます。

はんぶんはどれ？と聞き、

「りんごのはんぶん」「ケーキのはんぶん」「ジュースのはんぶん」を選びます。

正しく選べたら、同じ立方体の積木を八つ積んで子どもに渡します。

「半分だけください」と言います。

次に「半分だけ弟に上げてください」と言います。

1年の1学期の終わりには、漢数字が出てきます。

横一列に「一」から「十」まで視写します。

そして、「一」と書き、つづけて「つ」と書きます。

「一つ」をさして、「ひとつ」と読むよ。と教えます。

また横一列に「二つ」「三つ」「四つ」「五つ」・・・と書いていきます。

次はエンピツの数を数えます。「何本ですか。」と問います。

「一ほん」「二ほん」「三ほん」「四ほん」と数えていきます。

問いに答えて、書いていきます。

数によって読み方が変わります。

指導ではありませんが・・・。

もの数え方が1年の国語の教科書に出てきます。

えんぴつを数えるときには、

1ぼん 2ほん 3ぼん 4ほん 5ほん 6ぼん 7ほん 8ぼん 9ほん 10  
ぼん

実にややこしい。

1、6、8、10のときは半濁音になります。

2、4、5、7、9のときは清音のままです。

3のときは濁音になります。

漢字の「本」で書いてしまえば、このややこしさはなくなります。

しかし算数では、はやくから、「なんぼんですか?」と言う問題がでできます。

子どもは「8ぼん」と答えてしまいやすいです。

園の送り迎えのときに、電信柱の数を数えたり、

空き瓶をごみに出すときに、手伝ってもらいながら数えたり、

散歩のときに、咲いている花を数えたり、

しながら覚えさせてあげてください。